

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「第二の我が家のホーム」「生きがいのあるホーム」「開かれたホーム」「家族とひとつになれるホーム」の4つの理念に基づき、地域の関わりの中で、その人らしい暮らしが実現できるよう、職員全員でつくりあげた事業所独自の理念を掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	安心して生活して頂けるよう、受容的態度で接するよう心がけている。理念について職員間で話し合うことにより、一人ひとりが意味や必要性を常に理解できるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や運営推進会議で話し合うことにより、理解を得るようにしている。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方に会った際には挨拶、コミュニケーションを図るようにし、近所の方も参加できる行事がある時は、声をかけ、気軽に参加して頂けるように心がけている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われている祭り等に利用者と一緒に参加させて頂いたり、散歩に行く際にはゴミ拾いを行っている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	11月11日の介護デーでは、地域の方に向けて「認知症相談コーナー」「長谷川式スケール」「学習療法の体験コーナー」を実施したり、日頃から気軽に相談してもらえる様、環境を作っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が意見を出し合い、管理者がまとめ、自己評価を作成している。施設長、管理者、職員とも自己評価や外部評価を行う意義の理解ができ、日々の業務を見直す好機と捉えて改善に活かし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の代表、市、地域包括支援センター職員、利用者、利用者家族等のメンバーと2ヶ月に1回開催している。会議では外部評価や事業所の運営、現状等を報告し、意見や助言を頂いている。会議内容は議事録にまとめ、常時閲覧できるように管理し、サービスの質の向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何か問題が起きた時や新しい取り組み等は、頻りに介護保険係を尋ね、相談するよう心掛けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要時に説明できるようにパンフレット等を準備している。研修会や勉強会に参加し、管理者や一部の職員は地域権利擁護事実や成年後見制度に関する制度を理解している。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加したり、勉強会を行うことによって、虐待について正しい知識を得る機会を設けている。利用者の表情や体の状態など細かい変化まで注意を行い、また家族との関係を密にとることにより、虐待防止に努めている。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は、家族、本人に対し契約内容をしっかりと説明し、理解していただいているようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話をしっかりと聞き、不満や苦情を言えるような関係づくりをしている。また、苦情受付の窓口をつくり、意見が反映できるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	体調変化など必要に応じて連絡を取り、家族が不安に感じないように配慮を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が直接、意見や苦情が言いやすいような雰囲気づくりや、玄関に意見箱を設置している。また、家族会でも意見や苦情が表出しやすいようにアンケートを実施し、家族からの意見は必ずミーティング等で検討し運営に反映している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から気軽に何でも話し合える様な環境、関係づくりを心がけている。又、意見箱に職員も無記名で投書できる体制を作っている。会議の内容は議事録として必ず管理者に報告し、必要があれば会議自体に参加して頂く。半年に1回は個人面談の場を作っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	普段から勤務の調整に努めているが、緊急で職員が必要な場合などは緊急連絡網をまわして職員を確保するようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は少ないが、職員の資質向上のため、法人内異動があり、異動の際は利用者に説明し、家族会等で報告を行っている。また、申し送りから引き継ぎ期間を充分に行い、利用者の動揺に繋がらないように工夫している。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用には事業所に適した人材を求めており、本人の能力を重視している為、性別や年齢等を理由に採用の対象から排除することはない。また、労働時間も規定内に収まるようにし、職員が研修や社会参加しやすいように職場環境を整えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の尊重、利用者の意志の尊重が言葉だけでなく日々の活動の中で活かされる為、人権教育の研修会やミーティング等で常に話し合いをしている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回事業全体で議題をあげ、合同勉強を行っている。必要に応じ教育係を個別に付け、研修を行う。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しており、協議会主催での勉強会や研修会を通じて質の向上への取り組みが行われている。また、地域のグループホーム事業所と年4、5回の勉強会や親睦会などを開催し、施設相互の情報交換や交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	意見ボックスを設置し、運営者が悩み等の相談にのることにより、ストレスの軽減につながっている。定期的に職員個人面談を行っている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自己目標を立て、3ヶ月ごとの評価や面談により、各自が向上心を持ち働けている。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時より職員が積極的に声をかけ、本人の困っていることや希望を聞き、それを職員同士で話し合い、可能な限りの支援を行い、信頼関係を築く。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネージャー、リーダー等が家族と会議を開き、家族の希望を聞き、職員全員が意思統一を行い、家族の要望を受け入れる努力をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が必要とする支援が分かり次第、職員で話し合い、必要とする支援により近い対応ができるよう努めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に見学や職員による自宅訪問を行っている。さらに、併設のデイサービスや一時宿泊サービス(介護保険外)の利用をしながら、職員や他の利用者と顔なじみとなるよう、又、利用者の意向やペースを尊重し、本人が場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊厳の気持ちを常に持ち、利用者の得意分野で力が発揮できるような場面作りや声かけを行い、互いに支え合う関係を築いている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	近況報告を細目に行い、職員だけで支援を行うのではなく、家族の意見を取り入れるような関係をとっている。家族と本人が共に過ごす時間が増やせるよう支援するように心がけている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者や家族からの聞き取りを行い、円滑な関係が取れる様に介入している。また、各種イベント等、積極的に家族へ参加を声かけし、一緒に過ごして頂く時間が持てる様支援している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族からの聞き取りを行い、外出活動の際には出来るだけ本人のゆかりの地を取り入れる様な計画を立てて実施している。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの性格を把握し、利用者が安心して生活できる様に支援している。又、必要に応じ利用者間に介入しより良い関係が保てる様、支援している。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	新しい事業所への情報提供を行い、円滑に新しい環境での生活が送れるように支援している。又、いつでも気軽に相談して頂けるような環境を整えている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本調査やアセスメントのみならず、日常の会話や表情から利用者の意向や希望を把握し、また、過去の生活歴や家族からの情報をもとに本人本位の暮らし方ができるように支援している。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを利用。また、生活歴アンケートを実施するなどして家族の協力を得て把握している。また、前居宅支援事業所やサービス事業所に情報の聞き取りを行い、今後の生活に反映できるようにしている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々に合った生活パターンを探るため、日々の生活の様子や気付きを記録し、情報を共有して話し合いの場を持つようにしている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に現場職員の気付きや意見をもとに話し合い、又、サービス担当者会議に主治医が参加するなど、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しをはじめ、現状の変化に応じて、随時見直しを行うなど、現状に即した計画が作成されている。また、毎月開催されるミーティングでも各利用者の状況が確認され、見直しに活かす取り組みがなされている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	取り組まれた内容や様子、表情の変化や体調の変化等を記入し、介護計画の見直しの際に活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するデイサービスとの交流。また、学習療法、パワリハビリ、ドッグセラピーなど導入し、事業所の機能を活かした支援がなされている。	○	季節の行事や誕生会、外出行事等に家族の希望があれば参加させている。今後も夢プロジェクトとして、本人と家族の夢をできるだけ叶えるようにしていきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	安全に生活ができるように、近隣住民と普段からコミュニケーションを取り、緊急時に協力を得られるような関係づくりに努めている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	家族との遠方への外出等にインフォーマルサービスの紹介や社会福祉協議会の援助、介護者の会の紹介を行う。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより権利擁護の定期的研修会に参加してもらう。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族、グループホームの3者が情報を共有し、適切な医療を受けられる支援を行っている。治療方針の決定は、本人、家族が中心となり、主治医との話し合いを充分行う支援をグループホームが行う。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医より必要に応じ、認知症の進行を計るMRI等を行う等のアドバイスを家族や本人にしている。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	介護職と看護師が報告、連絡、相談を密にとることにより、日常生活を安心して過ごして頂くよう支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された際、医療機関のソーシャルワーカーを通して医師、看護師等から情報を得て、退院後スムーズにグループホームの生活に馴染めるよう支援している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在り方については、入居時に同意書が交わされている。できる限り利用者や家族の意向に沿えるよう必要に応じ担当者会議を行う。家族、医師、看護師、職員等と連携を図り、終末期における医療処置と対応、方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者、家族の希望する終末期の暮らし方を職員全員が理解し、必要な場合は家族と協力しながら支援を行う。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅の状況や間取り等を確認し、安全に移れるよう、家族との話し合いを行っている。また、新しいサービス利用の際は情報提供を行うことにより、スムーズに利用できる様努めている。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日の生活の中でプライドを傷つけないような声かけや態度で接している。また、書類は鍵のかかる書棚に管理し、職員以外の人の目に触れないようにきちんと保管している。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	言葉の表現からだけでなく、何気ない表情や、普段のコミュニケーションから本人の希望を見出せるように気を配っている。必要に応じて選択肢を準備するなど自己決定が行いやすいように配慮している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床時間など、利用者一人ひとりのペースに合わせ、今までの生活と同じように自由にできる様希望に沿った支援をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容を月1回実施。季節の変わり目には家族より衣替えをして頂く。服は本人に選んで頂くこともある。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は最初のテーブル拭きから食器洗いまでなるべくして頂く。それぞれの利用者合った作業をして頂く。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が希望する物は可能な限り用意するよう努めている。	○	家族にも利用者の好みのものなどを聞いて今以上に本人の嗜好にあった支援をしていく。
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿、便意の訴えが困難な方には排泄チェック表で確認し、誘導している。リハビリパンツから綿パンツやトランクスへの移行を実施。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を好まれる方に対しては、毎日入浴も可能としている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	慣れ親しまれた、家具やベッドなどを持ち込んで頂き、できるだけ自宅で生活されていた時と同じ様な環境作りに取り組んでいる。また、利用者の体調や訴え、ADL低下に応じてその都度、家具の配置を変えたり、ベッドの高さを変えたりして支援している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、散歩、園芸、力仕事等、日常行って頂き、昔の生活行動パターンを取り入れ楽しく過ごしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状態に合わせてグループホームで金銭管理を行っている。買い物やイベントなどでお金を払う際、できるだけ自身でお金を支払う行為を行って頂いている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日中の時間をみて、散歩の声かけやテラスなどに誘導し、日光浴などを行っている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	夢プランの一環として、なかなか行けない県外の家族旅行や踊りの見学などを主治医と体調管理を行いながら家族とともに支援している。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に事前に協力体制をとって頂くようにして、本人の希望する際には電話できるようにしている。年賀状や暑中見舞いなどできるだけ本人に書いて頂き、家族との連絡がとれるように支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	談話スペースを設定することにより、気兼ねなく話せる時間を提供している。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束に関する勉強会を実施し、正しい知識を持てるようにしている。困難事例に対しては、職員全員で取り組み、一人ひとりがストレスを溜めないようにしている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関が施錠されることはなく、利用者、家族等が自由に入出りできる。職員は外出傾向のある利用者を把握し、鍵をかけることの弊害を理解している。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	環境整備に配慮し、利用者が好きな場所で安全に過ごせるよう、工夫している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物を手が触れないように奥にしまい込むことはしていないが、利用者の状態や状況に応じて手が触れないところにその時だけ動かしている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会を事業所と法人で行っている。ヒヤリハット届を細目、速やかに作成し、職員全員に通達し、事故防止に努めている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、事故等の緊急マニュアルを作成、確認をしている。また、普通救命などの勉強会にも参加し、対応の訓練も行っている。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、非常災害訓練を実施している。そのうち1回は消防署の協力を得て、火災訓練の指示を受け、夜間想定訓練も随時行っているが、地域の協力を得るまでには至っていない。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者が望む暮らし、家族が望む暮らしを理解し、リスクも考え、可能な限りの対応をしている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	健康面で変化があった時は、すぐに医療連携にて、医師との連絡を密にし、速やかに対応するようにしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬に関しては、看護師を中心に職員全員が用法用量を把握して使用できている。又、服薬毎にチェックを行い、飲み忘れや誤薬がないかなどの確認を行っている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	積極的に体操や散歩を行い、身体を動かす状態を多く設けている。水分をよく摂ってもらい、便秘予防に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者一人ひとりに口腔内の清掃をしてもらい、職員が確認して、汚れていれば職員が再度口腔内の清掃を行う。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や水分補給を個々に記録し把握している。また、献立は栄養士が栄養価やバランスを考え作成し、その人の疾病や状態に合った調理法や内容を考慮し、個人別に対応している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日出勤する職員は、熱をはかり、体調を確認してから、業務にあたっている。また、手洗い、うがいも積極的に取り入れ、感染症の予防法などについても情報を共有している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は適正な場所に保管している。また、食材だけでなく、台所、調理器具も常に清潔にしている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は常に清掃して、物などが置かれていないようになっている。場所が分かりやすいように、大通りに看板を設置し、玄関にはゆっくりできる様、テーブル、椅子を置いている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間には数人で座れるソファを配置し、テレビを観たり、娯楽スペースを作っている。また、カウンターでお茶を飲んだり、食事の準備を一緒に行える空間がある。バルコニーがあり、中庭の草花を眺めたり、鉢植えの花など見ながら日光浴できる居心地の良い場所となっている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを数台置くことで、好きなどころで過ごして頂けるような環境と、テレビ前にソファを2台置いてみんなで過ごせる共有の空間を作っている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた整理ダンス、テレビ、机、ベッドなど、馴染みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。また、利用者、家族の希望によって居室内に畳や衝撃吸収マットを敷くなどして安全かつ快適に過ごせるよ		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いやよどみが出なくても定期的に空調(換気)を行っている。また、一人ひとりの体調に合った衣類調整をしている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や必要と思われる所には手すりを設置し、出来るだけ本人の力を活用した生活が行える環境を作っている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活の中で、選択できるような場面を多く作り、利用者自身に選択して頂いている。また、一人ひとりの生活パターン、性格を考慮し、未然に防げることは防げるよう、誘導している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に畑を設け、苗植えから収穫までを利用者と一緒に行えるようにしている。バルコニーを広く設け、自由に過ごせる空間を屋外に設けている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 ○ 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての家族等が 《 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない